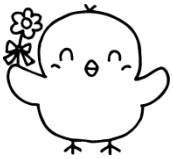

ひよこだより

都立葛飾ろう学校　乳幼児教育相談

令和４年４月７日　ＮＯ．１

育てにくいお子さんに寄り添って

今は他校にいる保護者ですが、教え子の弟Ａ君の子育てについて２歳児を修了した時に綴った文集原稿を読ませていただきました。育てにくいＡ君だったのですが、Ａ君の特性を理解し、必要なことを実践してきたママの子育ての手記が心に響きました。育てにくいお子さんたちの中には、知的障がいはないのになんらかの発達に偏りのあるお子さんたちがたくさんいます。衝動性、多動性が強い、文字の読み書きにつまずきがある、数が苦手、言葉の理解や表出の両方またはいずれかが困難というように、その実態は様々で学齢期にならないと診断がつかないケースもあります。小さい時期には診断がつかないケースが多いため、親御さんは「どうしてうちの子は？？」とその育てにくさにモヤモヤしたり、他のお子さんと比較して悩んだりすることがあるわけです。

今回Ａ君のママはそんな育てにくいＡ君について、悩みながら子育てをスタートしてきました。その子育てについて、了解をとって紹介させていただきたいと思います。抜粋しながら、一緒に子育てで学びたいポイントについて考えたいと思います。

●わが子の理解

「なんて育てにくい子だろう、何かあるのでは？」「何の障がいなの？何ができないの？」と強く問い詰めました。でも、発達障がいの専門の先生は、「障がいをこれと決めつけるのは医者だけ。そういう特性のこと。Ａ君の苦手な部分に注目するのではなく、Ａ君の良いところをぐんと伸ばしていこう！」と言われ、目から鱗でした。…癇癪（かんしゃく）がひどくて、癇癪がいけない、癇癪持ちを直そうとしていたのは親の都合だったのか。自分が恥ずかしくなりました。Ａの特性を受け入れるためには、まずＡを観察してみることから始めようと思いました。そこから本当の子育てが始まったように思います。

ママは専門家から「苦手な面に着目するのではなく、良いところを伸ばしていこう。」というアドバイスをもらいました。どうしても子供の困ったところ、苦手なところ、できないところに親御さんたちは目を向け、それを解決、克服するためにはどうしたらいいかと考えがちですね。でも、子供たちの苦手さの中にはすぐには変わるわけにはいかない、変われない事情があることも考えなければいけません。それが子供のもって生まれた特性によるということで、親御さんが「普通」を求めて焦って関わることは、子供にとっては苦しい、不快な関わりと感じることにもなりかねません。ママは、専門家の一言を素直に受け止め、Ａ君が癇癪持ちであることを直そうではなく、どうして癇癪を起すのか…観察していこうと考え、捉え方、関わり方を変容させていった姿勢が素晴らしいと思いました。

●情報をきちんと伝える

「ろう児は目の子」という基本的なこと。私たちろうは、色々なことを見て情報収集しています。Ａは人一倍感受性が強いので、何の情報もなく目の前にあるものをいきなり取ってしまうと怒りが収まりません。最初は分からなかったのですが、アクションを起こす前に、その都度絵カードや手話で説明して本人に納得させて、自分で選択させることを繰り返していったらだんだんと落ち着いてきました。赤ちゃんの時から目からの情報を取り入れていくことの大切さを改めて知ることができました。

例えば親御さんが黙ってトイレに行ってしまうと、聞こえない子供は「ママがが消えた！」と捉え、不安を強く覚えることがあります。必ず視線を捉えて「ママ、トイレに行ってくるよ。」と伝えることが大事です。聞こえるお子さんであればお子さんは見ていなくてもドアを開ける音や、

足音を聞きながらママはトイレに行ったなということが情報として入ってくるのです。また、「トイレに行ってこよう。」と何気なくママがつぶやいたことをキャッチして、ママはトイレに行ったと理解できます。しかし、聞こえないお子さんには、視線を捉えて一つ一つこうした説明、伝達をしていかなければ不安にさせる、びっくりさせることに繋がってしまうわけですね。A君も、説明なく行動が開始されることで不安というより怒りを感じたことがあったため、ママは行動を起こす前に絵や手話で説明し、納得させるよう心掛けました。そして、絵の選択や手話での応答で意思を伝えられるよう関わったようです。とても手間がかかることではありますが、情報をきちんと伝える、そして納得できるように関わることが大事であることが学べますね。

●育児記録をつける

育児日記はバタバタしていたので、1日1回、冷蔵庫に貼ってあるホワイトボートにAができた事のみ書いてみました。Aの成長が目に見えるので、これからどうしようかと整理できたので良かったです。不思議と怒ることもイライラすることも少しずつ減っていきました。

二人の子育てや仕事で忙しい毎日の中で、ママはA君が「できたこと」を冷蔵庫のホワイトボードに書いてみたということでした。できたことは子供の成長の記録であり、親御さんにとっても嬉しい記録。次はどんなことができるようになるかな、と期待し考えるきっかけにもなっていったと思います。怒ることやイライラが減ったという効果に繋がったママの実践は是非真似たいですね。ホワイトボードだと消えてしまうので、紙を貼って手書きすると子育ての貴重な記録として残すこともできていいですね。こうした記録がメモ程度でも、雑書きでもいいので、私たち担任と共有させてもらうとアドバイスにも活かせます。育児記録は子供をよく見ているからこそ書けるものです。書くために子供をよく見る、そんなきっかけで始めると効果的ですね。

●子供の好きなことに寄り添って

好きなことをどんどん伸ばしていくことの大切さです。Aは1歳の時からトイレを見るのが大好きでした。（トイレトレーニングは全然進んでいないのですが…）何度も何度もトイレの水を流して水流を確認していました。散歩に行く時も必ずトイレをチェックしていました。最初は汚いからやめて欲しいと思っていましたが、Aの好きなトイレ巡り？にとことん付き合うことにしました。トイレの写真集も作りました。今は水道管が好きで、雨水マスやマンホールや水道管を一つ一つ確認するようになりました。その時、「トイレ（指差し）と水道（指差し）と地下（指差し）はつながっている。」と手話で言ってきたときはビックリしました。探究心に驚かされます。水が好き→トイレが好き→トイレの水はどこから流れるのだろう？→水道管につながっている→地下水があるというように好きなことを通してぐんと知識が広がっていくのだなと感心しました。今後もAの好きなことをどんどん伸ばしていこうと思いました。

公園のトイレは汚いから触らないで～というように思い、トイレで遊ぶことを止めたくなる親御さんが多い中で、ママはトイレが好きなA君に合わせてとことん付き合い、一緒に覗いたり、水を流したりして、写真集まで作ったとのことです。脱帽です。そして今度は雨水マスやマンホール、水道管への興味。A君はこうして興味のあるものを飽きるまで観察して、トイレと水道、水道管が繋がっていることをママに伝えたというのですから驚きですね。ママの言うように好きだからこそよく見て考えたことで、知識も広がったのでしょう。これまでも、虫や乗り物、動物、野菜と子供の好きなことに付き合うママたちの丁寧な関わりには出会ってきましたが、今回トイレとマンホールにとことん付き合ったママの実践は初めてでした。本来付き合いにくい子供の「好きな物」でしたが、ママはよくぞ付き合いましたね。素晴らしいと思いました。育てにくいお子さんもそうでないお子さんも、子育てで大事にしたいことは同じです。子供の良い面を見て、子供の好きなこと、得意なことを伸ばす発想で、わかるように丁寧に関わる。その積み重ねの中で子供の力は引き出され、親子のコミュニケーションも良好に育まれていきます。A君のママの記録はとても参考になりますね。今年度も子供に寄り添い、子育てを楽しんでいきましょう。　　（文責　菅原）